

(7) 北 陸



北陸地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費はこのところ持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は緩やかに持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)。

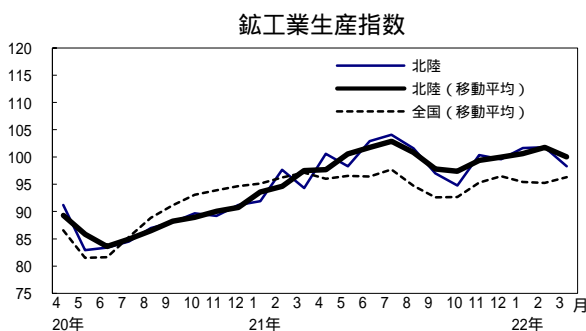
前回からの主要変更点

	前回(令和4年3月)	今回(令和4年6月)	
景況判断	持ち直しの動きとなっているものの、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、一部に弱さがみられる	緩やかに持ち直している	
個人消費	このところ持ち直しに足踏みがみられる	このところ持ち直しの動きがみられる	
雇用情勢	感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等は緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

1 - 3月期の鉱工業生産は、電子部品・デバイスや金属製品が増加したこと等により、前期比2.3%増となった。



(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。北陸の最新月は速報値。
2. 全国及び北陸の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10 - 12 月期	1 - 3 月期	1月	2月	3月
電子部品・デバイス	15.3	9.0	10.4	1.0	3.4	3.3
化学	14.0	9.2	3.7	12.7	15.3	11.2
生産用機械	11.8	8.6	0.4	8.9	0.2	10.5
金属製品	8.1	0.1	5.1	4.2	0.1	0.8
繊維	6.9	0.4	1.1	0.6	2.1	3.4
鉱工業	100.0	2.6	2.3	2.1	0.1	3.4

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 1 - 3月期、3月は速報値。

2. 個人消費の動向

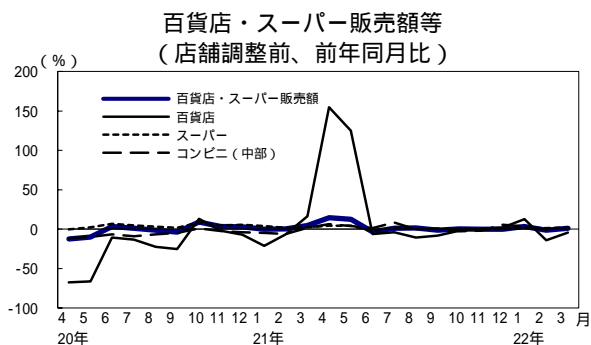
個人消費はこのところ持ち直しの動きがみられる。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1 - 3月期は前期比0.2%減となった。月別にみると、1月は前月比1.0%減、2月は同1.4%減、3月は同1.9%増となった。

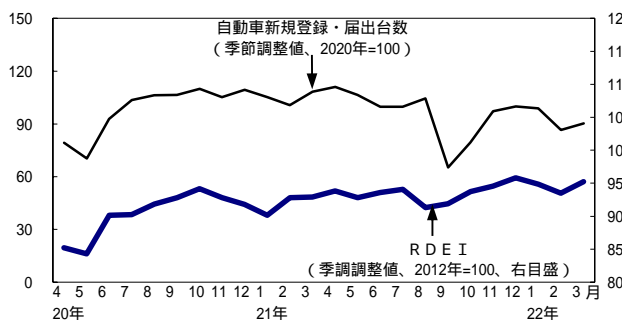
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、1 - 3月期は前年同期比1.1%増となった。月別にみると、1月は前年同月比3.3%増、2月は同1.3%減、3月は同1.0%増となった。



	2022年1-3月	2022年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	0.2	1.0	1.4	1.9
百貨店・スーパー(*2)	1.1	3.3	1.3	1.0
百貨店(*2)	2.3	12.7	14.1	4.2
スーパー(*2)	1.7	1.8	1.1	2.1
コンビニ(*2)	1.6	3.7	0.6	1.7
乗用車(*3)	14.0	6.4	14.4	16.9
(季節調整値)(*3)	0.3	1.0	12.6	4.5

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

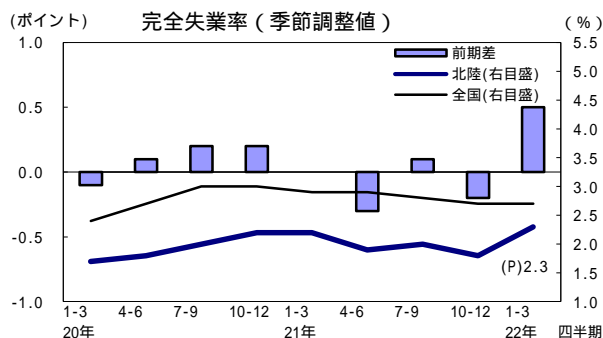
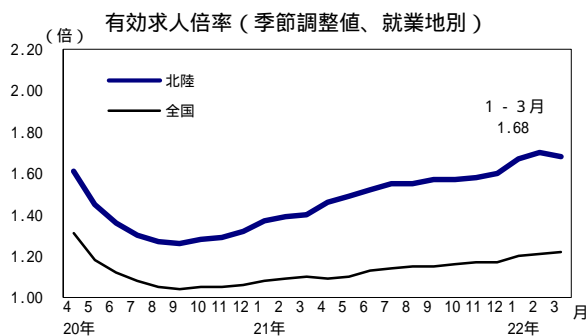
コンビニは、経済産業省の中部(富山、石川、岐阜、愛知、三重)の値。

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

3. 雇用情勢

雇用情勢は緩やかに持ち直している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を上回っている。



(備考) 1. 内閣府にて季節調整。

2. 1 - 3月期の値は暫定値。

(13) 景気ウォッチャー調査 (令和4年4月調査) 景気判断理由の概要

7. 北陸

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・まん延防止等重点措置が解除され、個人旅行や家族の集まりでの利用増加に手応えを感じるが、企業の接待や宴席による利用はまだまだで、新型コロナウイルス発生前と比べると全体では7割弱の集客となっている(高級レストラン)。
			・3月下旬に駅前で商業施設が開業し、土日を中心に来客数は微増したが、天候不順や気温の低下で春の羽織物系の衣料品を中心にファッション関連が苦戦している。また、好調だった生鮮品でも価格志向が強まり、食品スーパー等へ客が流れている(百貨店)。
			・県民割の販売が売上の確保に大きく貢献している。特に県内日帰り旅行が好調である。出張や団体旅行の問合せも徐々に入ってきている(旅行代理店)。
	企業 動向 関連		・受注量は変わらずに推移している(化学工業)。
		×	・建設業はおおむね順調である。2~3か月前と比べてマイナスになっている事業所はない。製造業の一部の会社では価格はともかく資材が順調に調達できているようで、会社によって差はあるものの上向きの状況である(税理士)。 ・全体の受注は回復傾向にあるが、原材料価格の高騰が収益を圧迫している(繊維工業)。
雇用 関連		・一時期と比較すると、求人広告の出稿意欲は戻りつつある。ただし、業種や雇用形態に偏りがあり、全体として上向きになったとは言いきれない(新聞社[求人広告])。 ・継続案件、スポット案件共に求職者数が増加傾向である(人材派遣会社)。	
その他の特徴 コメント			：ビジネス客、レジャー客共に個人予約の増加で堅調に推移し、2か月連続で稼働率が10%アップしている(都市型ホテル) ：新型コロナウイルスの新規感染者数は依然として多い状況だが、警戒感が下がり来客数は新型コロナウイルス発生前に戻りつつある。しかし、度重なる値上げで買物には慎重になっている(自動車備品販売店)。
先行き	家計 動向 関連		・コロナ禍でのライフスタイルの変化に加え、消費者の節約志向、業種業態を超えた競争の激化、働き方の変化、電気料金や物流費等の高止まりなどの影響を受けている(スーパー)。
			・新型コロナウイルス感染症による上海のロックダウンにより、人気商品が入荷しなくなっている(家電量販店)。
	企業 動向 関連		・当業界では、半導体関連や部品不足に伴う設備需要がまだまだ見込めそうだが、為替や地政学リスクを考慮すると、現状から大きく変わることはないとみている(一般機械器具製造業)。
			・輸入原材料価格は更に上昇する見通しで、採算性は確実に悪化する。製品価格への転嫁は競争力の低下につながるため容易ではない(食料品製造業)。
	雇用 関連		・求人数については、状況が変化する要素や気配がみられない(学校[大学])。
その他の特徴 コメント			：新型コロナウイルスの影響はあるが慣れも出てきており、人の動きに思ったほど悪い影響はない。ゴールデンウィーク中の人流れは不明だが、駅前周辺から中心部に人が移動するとの見通しもあり、入込客の増加に期待して各店舗は販売促進を行っている(商店街)。 ×：ウクライナ情勢により木材が更に高騰するとの予測がある上、その他資材や建材の値上げも続いており、それを売価に転嫁せざるを得ず、販売価格のピークアウトがみえない。その結果、高額商品における消費の冷え込みは必至と考える(住宅販売会社)。

(D I) 現状・先行き判断D I (北陸)の推移(季節調整値)

